

1. サイン計画の基本

1-1. はじめに

- サインは、「情報」と「空間」に分類される。
- 情報系サインは、文字や地図、記号を用いた公共サインを指し、空間系サインは街並みなどが造りあげる軸性などがあげられる。



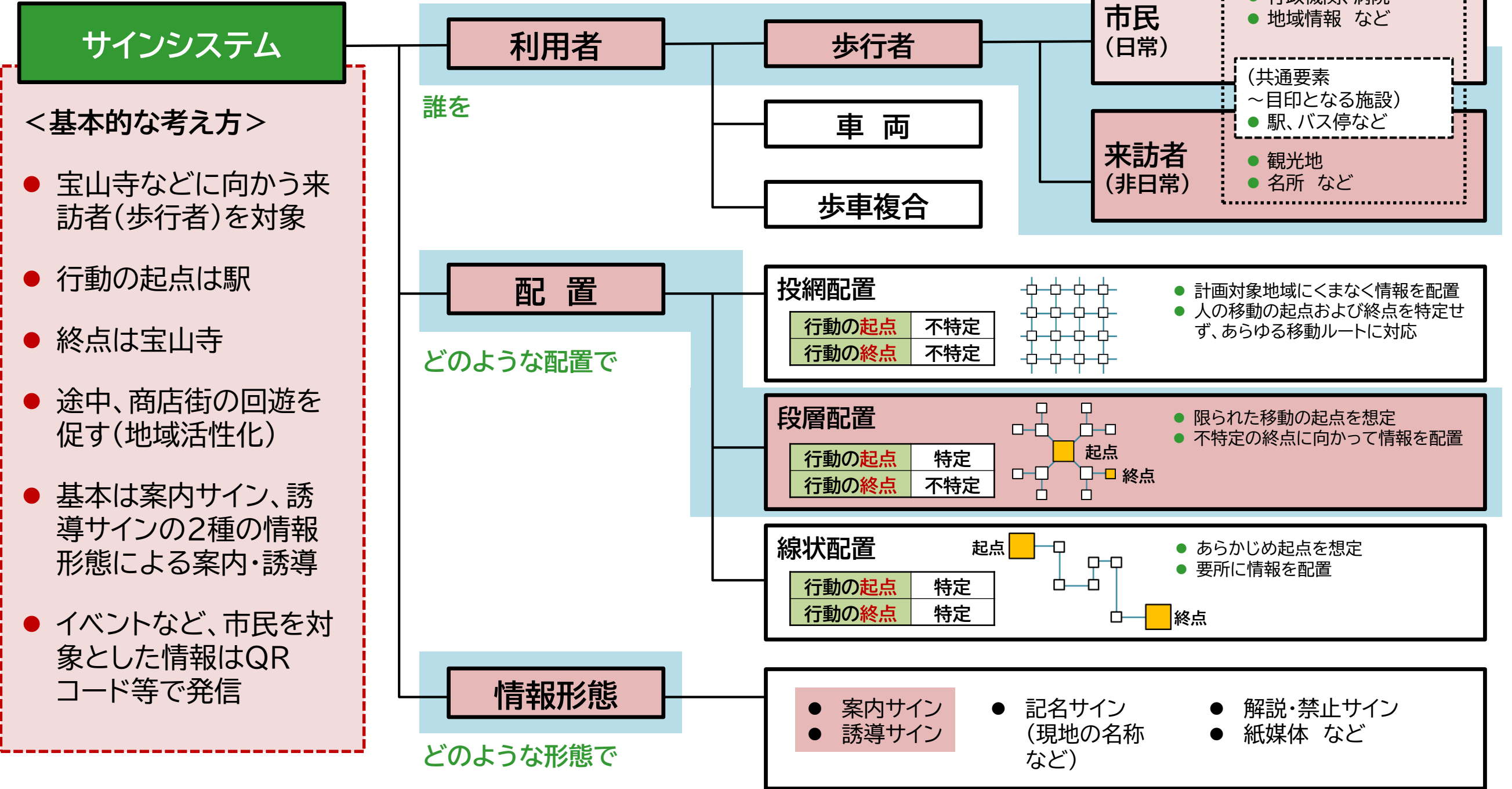
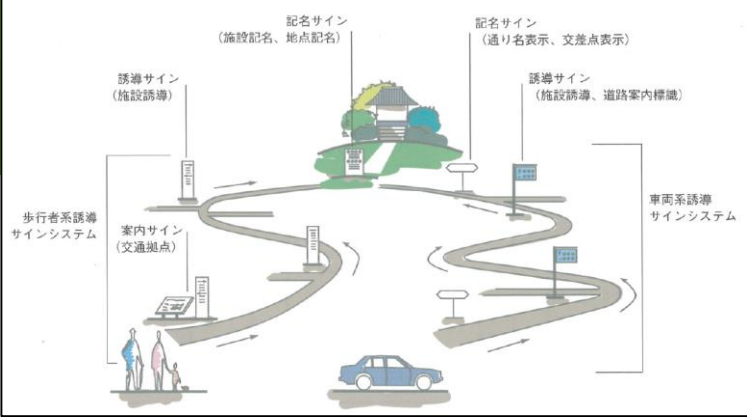
- 情報系サインは煩雑に設置せず、空間系サインを考慮し必要に応じて最小限に設置を行うことが必要。
(例)道路が美装化された宝山寺参道は、軸性があるため途中にサインがなくても目的地にたどり着くことができる。

1. サイン計画の基本

1-2. サインシステム

- 誰を対象に情報を提供するか
- どのような配置によって情報を提供するか
- どのような形態で情報を提供するか

(図表)生駒市都市サインデザインマニュアル
誘導サインシステム



1. サイン計画の基本

1-3. サインシステム/情報形態(一般的な都市サイン)

案内サイン	誘導サイン	記名サイン	解説・禁止サイン
地図が基本	文字情報が基本	文字情報が基本	文章が基本
			
● エリアや概念について全体像を伝える ● 地図などで案内を行い、利用者が知りたいエリアと現在地の関係が把握できる。 ● 多量の情報を提供することが可能	● 目的となる主要な施設・地域への方向、距離等を示す。 ● 情報は矢印と地名、施設名で構成される。 ● 視認性は高いが、情報量は限られる。	● 道路名称や所在地、施設や地点などの名称を示す。 ● 他の情報と組み合わせて表示することが多い。	《解説》 ● 事物の説明を行う ● 施設解説、学習解説、利用の説明などの情報を掲載。 《禁止》 ● 行動を規制

2. 案内サインの検討に向けた基本的な考え方

2-1. 検討条件の整理

(1) 本案内サインの検討条件(基本的な考え方)

【条件1】 観光地に向かう来訪者を対象とした円滑な往路ルートのご案内誘導

案内誘導

- 近鉄等生駒駅から、生駒ケーブル鳥居前駅～宝山寺駅を経由した宝山寺などの観光拠点への円滑な案内誘導を行う。
- 生駒山上遊園地は、ケーブル駅から見渡すことができるため、簡易な文字情報のみでの案内誘導を行う。



【条件2】 駅に向かう来訪者を対象とした商店街経由の帰路ルートのご案内誘導

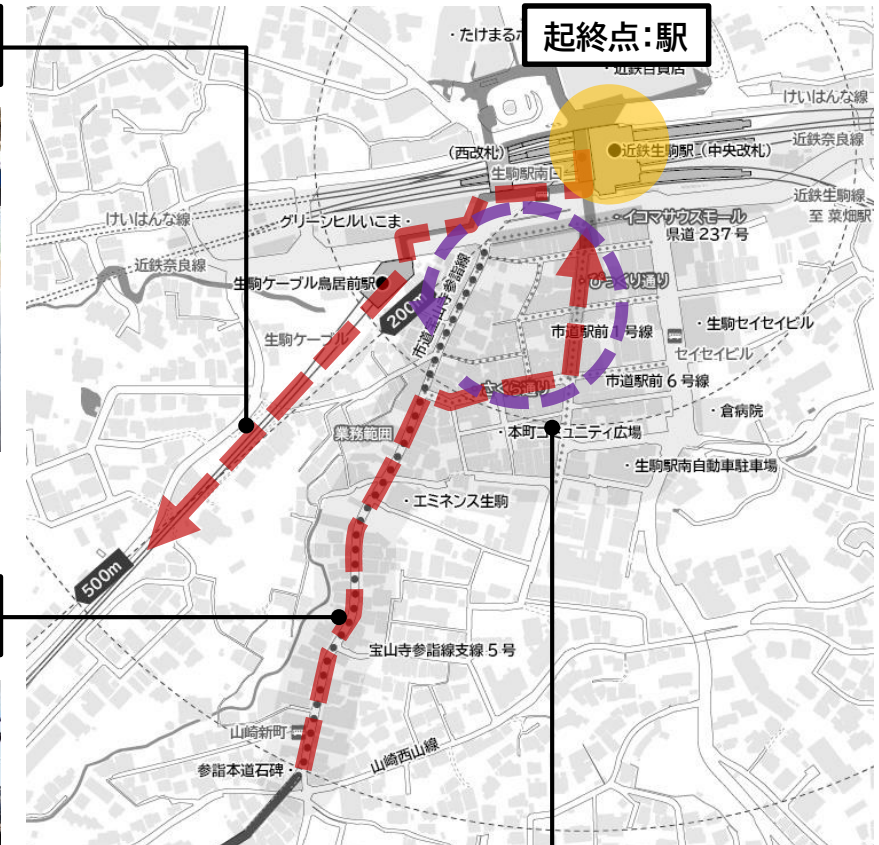
地域活性化

- 宝山寺などの観光拠点から駅へと向かう来訪者を商店街へ促し、食事、購買、交流などの行動を通じて地域活性化につなげる。



【条件3】 来訪者及び地域の方を対象とした地域情報の発信

- 来訪者とともに、地域の方を対象として商店街を中心とした地域情報・資源(イベント、店舗、歴史)を発信し、持続的な回遊、散策の推進、まちづくりなどに関する地域意識の向上を促す。



2. 案内サインの検討に向けた基本的な考え方

2-1. 検討条件の整理

(2) 本案内サインの位置づけ

目的別のサイン種類(他都市事例)

① 市民・来訪者を対象とした
「都市案内サイン」



- 駅などの不特定多数が利用する施設、公共施設を基本情報としたサイン

国土交通省道路局が監修した「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」を参考したサイン事例がある。



- 都市サインは平成10年に策定されている「生駒市都市サインガイドライン」、平成12年に策定されている「生駒市都市サインデザインマニュアル」で規定されているサインが対象。
- 策定後、本体整備は一部行われているのみと推測。



本案内サインの位置づけ(求める機能)

- 基本的な考え方やベースとなる地図(掲載基準をベースとした情報)などは都市サインをふまえて検討。
- 観光案内や民間施設案内という点では都市サインとは別のサインとして位置づけ、観光案内や地域案内を行う。

② 観光客を対象とした
「観光案内サイン」



- 都市サインをベースとして、観光拠点を追記したサイン
- 写真と説明文を掲載したものが多く

③ 市民・来訪者を対象とした
「民間施設案内サイン」



- 民間情報を掲載したサイン
- 写真は富山市の事例であるがLRT路線図とともに商店街マップが掲載されている(占用物件かは未確認)

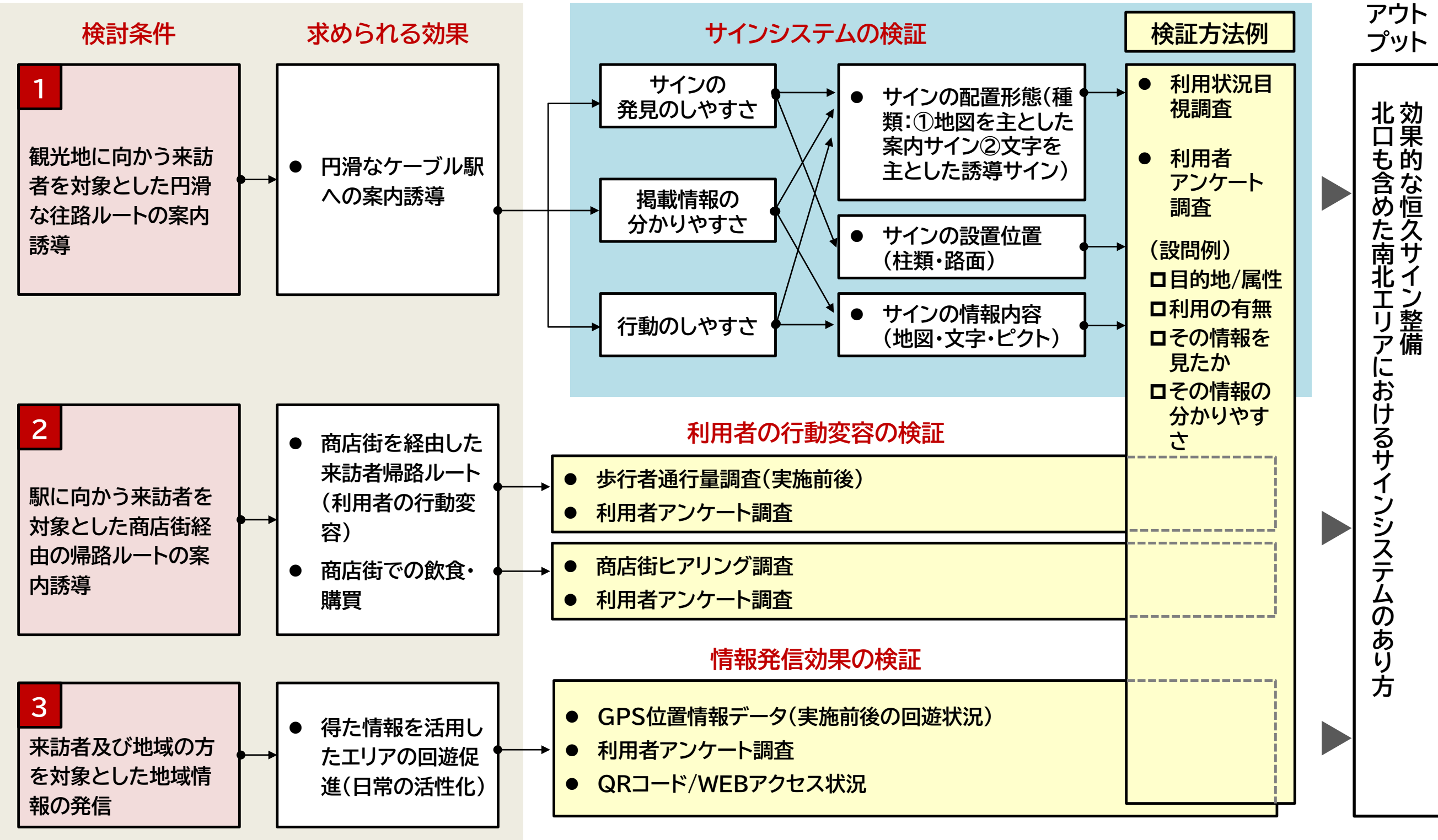
社会実験として実施(暫定設置)

- 街路灯やアーケード柱等、既存物件の活用
- 効果的な恒久サイン整備を視野に、先述した条件、目的を実現するサインのあり方を取りまとめる。

2. 案内サインの検討に向けた基本的な考え方

2-1. 検討条件の整理

(3)社会実験・検証内容 ● 検討条件(基本的な考え方)で述べた3つの条件を基本に調査・検証を検討する。



2. 現況調査

2-2. ルート検証①

【条件1】 観光地に向かう来訪者を対象とした円滑な往路ルートの案内誘導



行動起点
既設の案内サイン
● 改札前面に案内サインがあるが、情報にメリハリがなく、分かりにくい印象を受ける。

課題

- 地図情報の改良

分岐点
デッキ天井部の誘導サイン
● 景観を阻害しないシンプルなデザインであるが、文字サイズが小さく、分かりにくい印象を受ける。

課題

- 文字情報のサイズアップ(交番を割愛しケーブル駅を分かりやすくする等)
- 喫煙禁止などの規制サインの配置の見直し

分岐点
デッキ天井部の誘導サイン
● 同左 ● ビル通路を経由することになるため、戸惑いを与える印象を受ける。

交通拠点
駅の名称サイン
● デッキを経由して駅に向かうことになるが、駅名サインが小さく、分かりにくい印象を受ける。

課題

- 駅の記名サインの顕在化(※近鉄)

2. 現況調査

2-2. ルート検証②

【条件2】 駅に向かう来訪者を対象とした商店街経由の帰路ルートの案内誘導



行動ルート
道路の美装化
● 道路の美装化による軸性、遠方が見通すことができるため、駅方向へのルートが分かりやすい。

商店街方向への分岐点
交差点
● 商店街方向が一見して分からない。 ● 歩道がなく、サイン設置については柱類、路面のみとなる。

課題

- 商店街・駅名を掲載した路面サインの設置

商店街南側入口
アーケード
● アーケードにより商店街であることは分かるが、駅へ向かうルートであることは分かりにくい。

課題

- 商店街・駅名を掲載した路面サインの設置

駅へのルート
デッキ
● デッキを経由して駅に向かうことになるが、駅名へ誘導する情報がなく、分かりにくい。

課題

- 駅方向を示す誘導サインの設置(※商店街)

3. 実施計画

3-1. サイン設置計画

⑥歩道橋:新規設置



⑤商店街柱:更新



④交差点NTT柱:新規設置



①行動起終点:案内サインの更新

- 近鉄生駒駅 中央改札:既存の案内サインへの情報追記



②デッキ天井部の誘導サイン:盤面の更新

- 既存本体を活用しながら、盤面のみの入れ替え(情報の更新)



③商店街柱:新規設置

